



生きている宝石「ミイロタテハ」

かわはく No.26

CONTENTS

平成18年度特別展「巨大昆虫の世界」	2
かわはくの展示から「溪流観察窓」	4
湧水の魅力	5
「かわはくからウォーキング」を作成しました	5
スタート 埼玉県立川の博物館	6
平成17年度アンケート調査及び来館者統計から	7
かわはくで学ぼう	8



平成18年度特別展

「巨大昆虫の世界 - ようこそトロピカルワールドへ - 」

開催期間—平成18年7月23日（日）～9月3日（日）

南米や東南アジアには巨大な昆虫が生息しています。今回の展示では、アマチュア昆虫研究家、長畑直和氏の収蔵コレクションを中心に多種類を展示します。

内容は南米産の美しいチョウや巨大なコウチュウが主になります。もちろんトピック的に珍虫・奇虫も含まれます。以下にその代表的なものを紹介します。昆虫界の多様性が色や形で表現された、昆虫のすばらしさが発見できると思います。

1. チョウの仲間

チョウ類は世界に2万種類いるといわれています。中南米には世界の約半数近い種類のチョウが分布し、華麗な姿を競い合っています。雄の翅が金属光沢に輝くモルフォチョウや空飛ぶ宝石といわれているミイロタテハ、毒をもつドクチョウなど多種類が知られています。

アカエリトリバネアゲハ

長大化した前翅が特徴的な大型の種類です。鮮やかな三角形の緑色紋の配列が美しく気品がただよいます。熱帯の森林に君臨するといわれ、雄は、森林の溪流の開けた水辺の砂地などに集まり集団で吸水します。雌は雄とは離れた場所で、より標高の高い地点でみることができます。そこでは樹上高く花蜜や食樹を求めて、ゆっくりと飛翔することが知られています。

フクロウチョウ

翅の裏側に大きな目玉模様があります。体全体の色や模様もフクロウを思わせます。写真は下が頭部で腹部が上になっています。主として南米に生息し、幼虫の食草はバナナです。チョウは夕方にも活動し、この大きな目玉模様で外敵から身を守っていると考えられています。

ヨナグニサン

日本に生息するガで、世界最大種といわれています。南アメリカ最大のガであるナンベイオオヤガは翅を開いたときの長さではヨナグニサンより広いで



アカエリトリバネアゲハ



フクロウチョウ



ヨナグニサン



すが、羽の面積ではヨナグニサンが広いといわれています。

ヨナグニサンの分布はインド、ビルマ、マレー半島、中国南部、スマトラ、ジャワ、スラウェシ、カイ島などが知られています。日本では八重山諸島や与那国島が主な生息地です。近年その生息数が減少しているため、沖縄県の天然記念物として保護されています。

2. コウチュウの仲間

巨大昆虫でよく知られているのはカブトムシの仲間です。頭や胸に数本の角をもつのが特徴です。しかし、小型の種類には角をもたないものもいますが、世界に約1000種類が知られています。その多くは熱帯や亜熱帯地方に生息しています。日本には4種類が知られています。

ヘラクレスオオカブトムシ

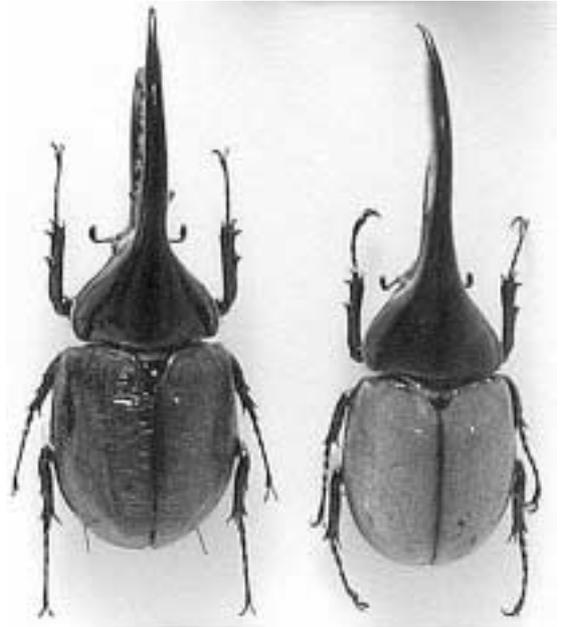
世界で最も体長が長い種類です。雄の体長は最大で18cmになります。雌には角がなく日本のカブトムシと同じような形をしています。種名のヘラクレスはギリシャ神話の英雄として知られているヘラクレスからきています。力は非常に強く、2~3kgの重さのものを運ぶといわれています。

オウゴンオニクワガタ

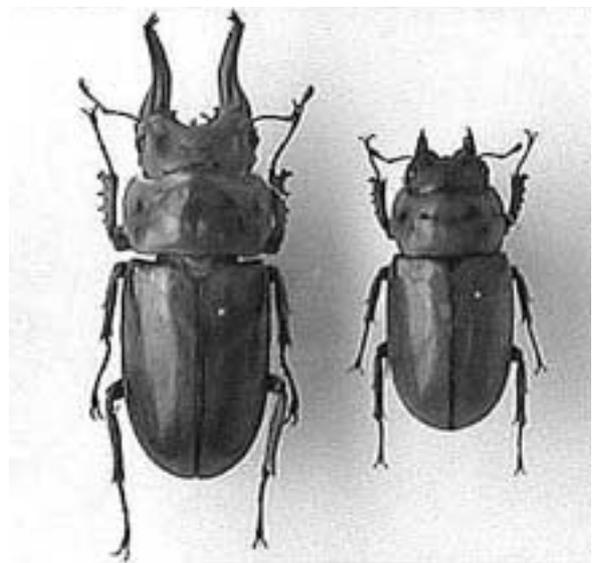
独特の色調をもつクワガタで、オーストラリアのニジイロクワガタに匹敵する美しい種として並び称されています。標高1000メートルをこえる高地の熱帯雨林にすみ、幼虫はカシ類の朽木を食べるといわれています。体はかたく、湿っているときは黒色味がありますが、乾くといぶした金のような色になります。生息場所は熱帯雨林気候の地域に発達する森林です。熱帯雨林には多様な昆虫が生息しています。

ナンベイオオタガメ

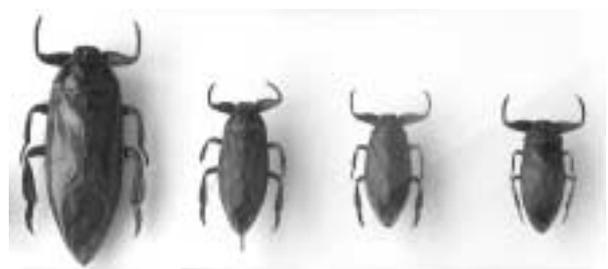
タガメはカメムシ目の仲間です。前翅の根元の半分がかたくなっているのが特徴です。池や川で水中生活をし、小魚やカエルなどを襲って体液を吸っています。ナンベイオオタガメは世界最大種で、体長10cm以上になります。



ヘラクレスオオカブトムシ



オウゴンオニクワガタ



オオタガメなど

左端：ナンベイオオタガメ、右端：タガメ（日本産）

チョウ 以外の写真は長畑コレクションより複写、引用させていただきました。（環境担当 松本 充夫）



かわはくの展示から

溪流観察窓

新生博物館としてスタートした埼玉県立川の博物館には、「川と人々の暮らし」をテーマとした様々な展示があり、御来館いただいた多くの来館者に好評をいただいています。そのような本館の展示のなかでも特にユニークなものが、荒川流域に生息する魚類の生態展示「溪流観察窓」です。ここでは荒川上流部、中流部、下流部、小川・沼に棲む各種の魚類、そして僅かですが甲殻類、両生類、貝類なども身近に観察することができます。

かつて川や水辺は子供達の絶好の遊び場であり、そこに棲む魚や両生類、貝類、爬虫類との触れ合いを通じて、生物の生態や命の尊さを学びました。近年では河川の改修や汚染が進み、貴重なメダカやタナゴ、エビ、貝などの生物を見る機会が少なくなりましたが、同時に子供達が集い自然との触れ合いを通じて学ぶ機会も失われつつあります。環境の変化が生態系のみならず、社会や教育の環境にも影響を及ぼしていることを改めて考えさせられます。

溪流観察窓では今は見る機会の少なくなった上流～下流域に生息するヤマメやイワナ、カジカ、メダカやタナゴなどの魚類、テナガエビやスジエビ、モクズガニなどの甲殻類、そしてイモリやドブガイなどを見ることができます。ガラス越しではありますが、かえてそれぞれの生物を身近に観察することができますと思います。



触れ合い水槽



新たに常設されたリーフレット

また、今年からは来館者へのサービス向上の一環としてオールカラーのリーフレットを作成し、溪流観察窓に常設しました。リーフレットを眺めながら、水槽内の魚の特徴や生態を細かく観察する楽しみも増えました。さらに、より一層、子供達が楽しく生き物に接することができるように、溪流観察窓の一角に「触れ合い水槽」を設置しました。水槽の中には愛らしい目をしたクサガメやユニークな姿のザリガニがいます。ここでは来館者の皆さんが、クサガメやザリガニに自由に触って親しむことができるようになっております。

パワーアップした県立川の博物館溪流観察窓に、どうぞ足を運んでみてください。

(展示担当 栗島 義明)

< 溪流観察窓のスタッフ >

当館はたくさんの方々のおかげによって支えられています。溪流観察窓は、魚が大好きという酒井さんと小宮さんが担当されています。



酒井さん



小宮さん



湧水の魅力

館長 柿沼幹夫

4月に自然の博物館長と兼ねて川の博物館長となってから、通勤途上に見かける「仙元名水」の道標が気になっていました。6月10日、忙中閑有り、曇り空でしたが探訪してきました。

八高線折原駅を過ぎ、車山を北に見て三品川に沿った道に入り、山里のふところに抱かれるような感触を楽しみながら行き着いたところは猪ノ倉。砂防ダムの上に石の祠があり、パイプに導かれた3カ所の吸水口から水が流れ出ています。

こんこんとわき出る湧水は、見る者に生命のエネルギーを感じさせるものがあり、私も機会があると今でも残る湧水・名水を訪ねるようにしています。仙元名水も湧水を期待していましたが、湧水源は仙

元山の山腹にあるそうで、やや興味がそがれました。しかし、しばらく居るとよく手入れされていることが分かってきて、地域の人々の名水に寄せる温かい心遣いが伝わってきました。

寄居町では名水百選の一つである日本水がよく知られていますが、仙元名水は訪れる人も少ないようです。しかし、インターネットで調べてみると固定ファンもいるようで、人間から来たとか練馬から訪れた、などの書き込みが見られます。

元気をもらいに、四季折々訪ねてみたい、と期しています。



仙元名水は仙元山（三角錘状の山）の山麓にある。仙元山の特色ある山容は遠くからも目立ち、町中からもすぐそれと分かる。



仙元名水



を 作成しました

埼玉県立川の博物館周辺の荒川沿いには、豊かな自然や文化財など多くの見所があります。



当館の少し上流の川原では、中・古生代に形成された秩父山地から荒川によって運ばれた変成岩、火成岩などが見られます。さらに、立ヶ瀬断層と呼ばれる秩父山地と丘陵地帯の境を表す断層も観察できます。

また、荒川に関連した文化財も多く北条氏邦の居城「鉢形城」は、荒川の断崖と深沢川などの自然の地

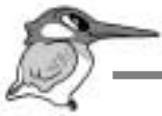
形をうまく利用した戦国時代の要害の城と言えます。

対岸には、「お茶々の井戸」と呼ばれる古井戸がありますが、鎌倉街道が通っていた頃の茶屋の名残と伝えられています。



荒川の周辺には、まだまだ多くの見所があります。館内で無料配布しておりますのでご来館いただいた際、付近を散策していただく時の参考にしていただければと考えています。

（教育普及担当 西口 正純）



スタート 埼玉県立川の博物館

平成18年4月から県立博物館の再編に伴い、埼玉県立自然史博物館とさいたま川の博物館が埼玉県立自然と川の博物館に組織統合され、自然の博物館、川の博物館の2機関が埼玉の自然とその変遷、川と人の暮らし、環境保全等に関する展示、調査研究、資料収集、保管などを行う博物館として新たにスタートしました。これに伴い、川の博物館では、夏休みまでに展示室を一部改装し、楽しみながら学べる機能をさらに充実します。その概要をお知らせします。

展示が変わります

第1展示室の導線壁面を飾る「荒川の表情」は、初めて荒川をみた人々、川遊びの思い出、荒川の名前、荒川の特徴、荒川の区分、荒川の動植物をテーマにパネル展示で構成されてきました。これからは固定的な壁面展示を可動的な展示空間として活用し、展示替えが容易にできるようになります。

その内容は自然史系のパネル展示に変更するとともに、季節毎に展示替えを実施することによって構成に変化を持たせ、固定的な第1展示室のイメージにアクセントをつけます。

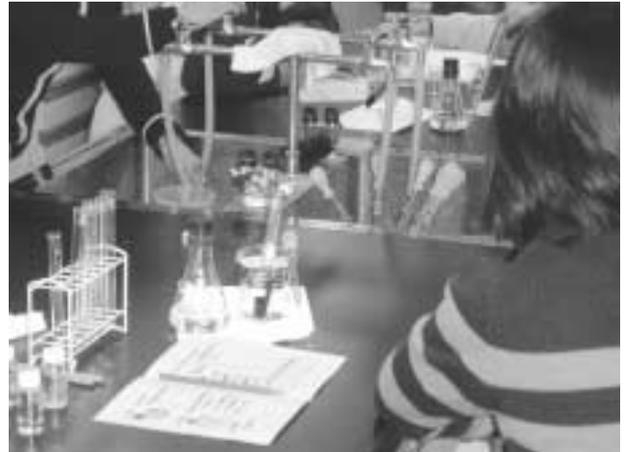
また、水とのたたかいコーナーにある水塚模型については、導入部での解説がないためその機能や意義について理解が難しいという意見がありました。そこで、解説パネルを付け加えて、水塚の機能や民俗学的な意義について理解しやすいよう工夫します。

ワークショップが変わります

開館以来親しまれてきた水の力を利用したウォータージェットカッターや降雨計及び流水模型を撤去します。

新たにこのスペースを水や自然をテーマに据えて来館者がいつでも、誰でも気軽におもしろ体験ができる場所として機能させ、「みる」から「やってみる」へと大きく様変わりします。

また、一クラス程度の子もたちがこのスペースを使って、授業を行うことも可能だと考えてます。水の力、水の不思議、身近な科学といったテーマを基に来館者が参加できる体験型の実験空間として位置づけていきます。



水質検査

3D映像体験

子どもたちに人気のアドベンチャーシアターにさらなる魅力が付け加えられます。

従来の「荒川ささ舟の冒険」「ライン河1320kmの旅」に加えて立体映像が見られます。

3D専用メガネを着用して、迫力ある飛び出す映像をお楽しみください。

夏の特別展「巨大昆虫の世界」にちなんだソフトを用意して皆さんをお待ちしています。

未来の荒川

第1展示室のフューチャートンネルにある映像や機器類が設置されているボードを撤去し、外光を導線上に取り込んでイメージ向上を図ります。

このボードを撤去することによって、リバーホールを巡る池と噴水、更には荒川河川敷を取り込んだ絵画的な「借景」を来館者に楽しんでもらえるようにし、反対側の壁面を利用して各種の情報発信ができるコーナーを作ります。職員ばかりではなく、利用者の皆さんからの情報もお寄せいただき、双方向性を生かした活用を図ります。

当館では、これまで川とともに暮らした先人の足跡を伝えることにより、県民の方々に川と人々の暮らしにかかわる環境をご理解いただくとともに、郷土学習や環境学習にご利用いただいています。

これからの川の博物館も、この設立目的の達成を目指し、他館にないアミューズ色の強い独自性を際立たせていきながら、利用者ニーズに応えてまいります。

(展示担当 岩本 克昌)



平成17年度アンケート調査及び来館者統計から

平成17年度のアンケートと当館の特色を示す統計グラフ・データをもとに考察してみました。

G 1：県内では、当館周辺地域と県南地域の利用が伸びています。県外からの来館が増加傾向にあるのはここ数年の特徴です。東京都内の博物館関連施設や群馬県内小学校のほとんどの学級に個別に案内資料を配付したことも影響していると考えています。

G 3～G 5：小学校の利用と30・40歳代の親とその子どもによる家族連れが自家用車で利用するのが当館の特色の一つです。

G 6：初めての方が多いのは、当然のことですが、複数回入場者も増えてきています。

G 7：来館の目的の上位は、展示鑑賞と余暇のくつろぎです。当館施設の特徴を端的に表わしており、本館での展示施設の見学・学習とわくわくランドをはじめとする親水施設や広場でのくつろぎに集中しています。体験事業への目的意識も順調に高まっています。

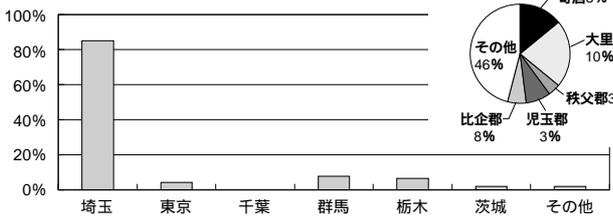
G 8：特別展開催や映画会、野外教室の順に期待される事業が多くなっています。印象に残るテーマ展の開催やイベントの展開によって、こうした声に応える工夫をしていきます。

G 9：他機関との連携による展覧会やイベントの実施により3月は入場者増となりました。夏場と5月、10月、11月の行楽・遠足シーズンに多くの入場者を迎えることが、重要となっています。

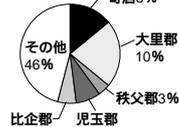
館名が埼玉県立川の博物館となった今年度は、オープニングイベントにも多くの方に参加して頂き、順調なスタートがきれました。それだけ入場者の期待も大きいと思われます。課題も多いのですが、それを乗り越え、入場者、県民の皆様の声に応えられるよう施設改修や積極的な広報活動に工夫と努力をしていきます。

(教育普及担当 福島 智)

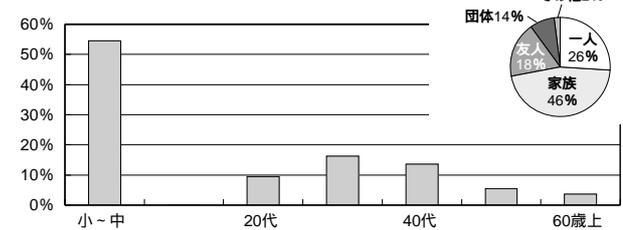
G1 回答者の住所



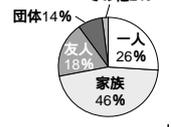
G2 県内



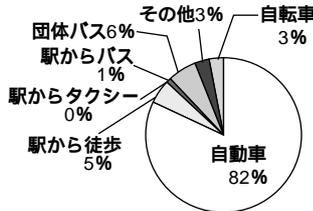
G3 回答者の年齢



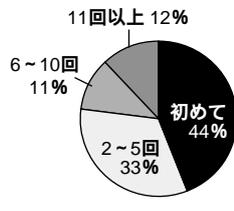
G4 同行者



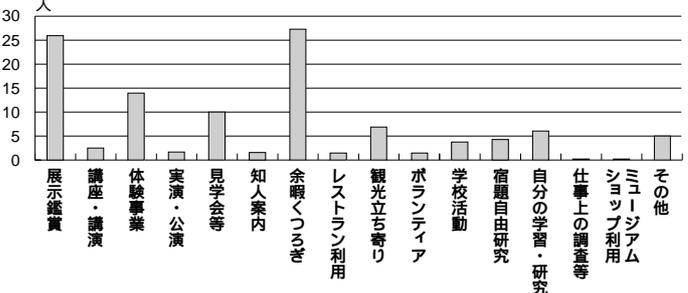
G5 来館手段



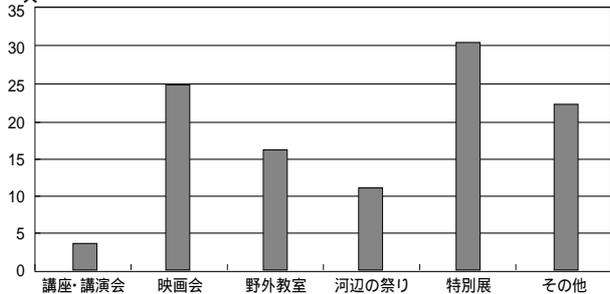
G6 来館回数



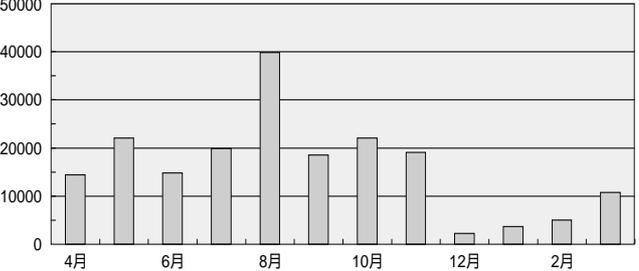
G7 来館目的



G8 今後望まれる事業



G9 月別入館者数



8月

7/23/日～9/3/日 特別展「巨大昆虫の世界」

1/火・16/水 利用促進研修会

時間：9:30～16:30

内容：教師を対象とした研修会で、教材として活用できるものを体験します。

5/土 特別展関連事業「夏休みの昆虫観察」

定員：40人

内容：館周辺の昆虫を観察します。

特別展講演会「アンデスに昆虫を求めて」

定員：80人

内容：長畑直和先生による講演会です。

6/日 水の日記念イベント

時間：10:30～13:30

内容：いろいろな種類の水を飲んでその違いを感じていただきます。

22/火 伝統漁法体験

時間：10:00～14:00

定員：各50人

料金：400円

内容：伝統的な投網や釣りを体験します。



9月

9/土 わくわくサタデーミュージアム「手作り箱メガネで川底探検」

時間：10:30～14:00

定員：各32人 費用：200円

内容：ペットボトルで箱メガネを作り、川底の様子を探ります。

16/土 映画会「トムソーヤの冒険 トムとハックとブタ騒動」

時間：13:30～14:30 定員：各80人

内容：子供向けの映画です。

17/日 荒川ゼミナール「火流布と中津川金山」

時間：13:30～ 定員：80人

内容：中島秀亀智先生による平賀源内に関する講座です。

23/土 わくわくサタデーミュージアム「手作り箱メガネで川底探検」

時間：10:30～14:00

定員：各32人 費用：200円

内容：ペットボトルで箱メガネを作り、川底の様子を探ります。

23/土～11/14/火 企画展「かわはくコレクション展」

内容：浮世絵などの館収蔵資料を展示します。

24/日 初めての釣り入門講座

時間：13:30～

定員：25人 費用：500円

内容：簡単な仕掛けの作り方を体験できます。



かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

10月

7/土 わくわくサタデーミュージアム
「野草観察と押し花カードづくり - 秋 -」

時間：10:30～14:00

定員：各32人 費用：100円

内容：館周辺の野草を採取し、押し花を作ります。

14/土・15/日 博物館フェスタ

会場：さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）

内容：子ども向け体験イベントです。

21/土 わくわくサタデーミュージアム「草木染めでハンカチづくり」

時間：10:30～14:00

定員：各32人

費用：200円

22/日 荒川ゼミナール「平賀源内と同時代の美術」

時間：13:30～

定員：80人

内容：内田欽三先生による講座です。

29/日 映画会「木籠うるし」

時間：13:30～14:30

定員：各80人

内容：子供向けの映画です。



11月

4/土 わくわくサタデーミュージアム
「ふしぎな船をつくろう - しょうのう船 -」

時間：10:30～14:00

定員：各32人 費用：100円

8/水 電子顕微鏡操作研修会

対象：小・中・高教員

時間：9:30～16:30

10/金～12/日 全国高等学校産業教育フェア

会場：さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）

12/日 「源吉じいさんと子ぎつね」

時間：13:30～14:30 定員：各80人

内容：子供向けの映画です。

14/火 県民の日イベント

時間：10:00～16:00

18/土 わくわくサタデーミュージアム

「ふしぎな船をつくろう - ボンボン蒸気船 -」

時間：10:30～14:00

定員：各32人 費用：200円

19/日 荒川ゼミナール

「源内ゆかりの地を歩く」

定員：50人 費用：1,500円

内容：秩父地方の源内関係の文化財等を巡ります（バス利用）



毎月第2・4土曜日10:30～と14:00～は「わくわくサタデーミュージアム」・毎月1回（土曜日または日曜日）13:30～は「映画会」が開かれます。最新の情報はかわはく情報等で紹介されます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 ❶印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAXでお申し込みください。 定員になりしだい締め切ります。 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL / 048-581-8739(学芸) FAX / 048-581-7332

R100

PRINTED WITH SOY INK

2006年7月18日発行